

第24回 設楽ダム猛禽類検討会 主な内容

1. 設楽ダム猛禽類検討会の経緯と役割

2. 令和6年（2024年）繁殖シーズンの調査結果

- クマタカ A ペアは、1～2 月にかけて誇示とまり、V 字飛翔が確認されたこと。3 月に既知営巣木の周辺にて交尾が確認されたが 5 月～7 月にかけて繁殖継続を示す行動が確認されなかったこと。7 月の林内踏査においても営巣木や幼鳥と親鳥の鳴き交わし等も確認できなかったため繁殖途中で失敗したと推察したこと。行動圏は、前年シーズンと比べて北側と西側で若干拡大していたことを報告した。
- クマタカ B ペアは、3 月の調査で、巣材運搬が確認されたものの、1 月～7 月までの調査で令和 5 年度生まれの若鳥が継続して確認されており、若鳥を追い出す行為も確認できなかったこと。そのため今シーズンは繁殖を継続せず繁殖途中で失敗したと推察したこと。行動圏は、前年シーズンから大きな変化はなかったことを報告した。
- クマタカ C ペアは、1～3 月に繁殖関わる行動は確認されなかったが、5 月の調査で新規営巣地が既知営巣木付近で確認され、巣内雛と育雛給餌する親鳥を確認したこと。7 月の調査で枝移りする幼鳥を確認したこと。9 月に新規営巣地周辺の林内踏査を行い、巣の特定を行ったこと。行動圏は大きな変化は見られなかったことを報告した。
- クマタカ C ペアは、幼鳥の飛翔の確認をもって繁殖成功としたことを報告した。
- その他猛禽類として、事業地内にてサシバ 1 ペアの巣内雛及びハチクマの飛翔を確認したことを報告した。

3. 令和6年（2024年）繁殖シーズンの工事に対する環境保全措置等実施結果

- コアエリア内で実施された工事に対し、監視調査を行ったこと。実施された全工事においては、低騒音・低振動の建設機械の使用、工事用車両のアイドリング、作業員や工事用車両の営巣地付近への不必要な立ち入り制限の徹底等を行ったことを報告した。
 - ・クマタカ A ペアは、3 月に既知営巣地から約 200m 西側の樹上で交尾を確認したこと。工事から約 700m、埋蔵文化財発掘工事から約 450m 離れた場所であつたが工事方向を気にする様子は見られなかったことを報告した。
- クマタカ A ペアに関し、工事箇所が南側に移動した場合、営巣地との位置関係によっては繁殖への影響に留意する必要があるとの意見をいただいた。

4. 令和6年（2024年）繁殖シーズンにおける繁殖失敗の要因分析

- 繁殖失敗の要因について、断定することはできないが、モニタリング調査及び林

内踏査の結果等より、以下のとおり分析したことを報告した。

- ・クマタカ A ペアは、3 月に既知営巣地から約 200m 西側の樹上で交尾が確認され工事に対する忌避・警戒行動も確認されなかったが、コアエリアへの他個体の侵入、クマタカ A ペアの高齢化が繁殖行動に影響を及ぼした可能性が考えられる。
- 工事による直接的な繁殖への影響だけでなく、間接的な繁殖への影響（例えば、工事に伴う樹木伐開地がクマタカの餌場となって他個体の侵入を誘引することによる影響）も今後は考えるべきとの意見をいただいた。

5. 令和 7 年（2025 年）繁殖シーズンの調査計画（案）

- 全体計画として、1 月から 3 月までの期間に繁殖利用巣の特定を目指し、その後、5 月まで巣と育雛行動の把握を行う方針。6 月以降は 5 月までの調査状況を踏まえた対応とする方針について了解を得た。
- クマタカ A ペアは営巣木を絞り込めていないため、抱卵期前までに営巣地特定を行う方針について了解を得た。
- クマタカ B ペアは、令和 5 年（2023 年）繁殖シーズンに繁殖した若鳥の巣立ちの状況が確認できれば、既知営巣地で営巣する可能性があるため、既知営巣地周辺の利用状況の監視を重点的に行う方針について了解を得た。
- クマタカ C ペアは、令和 6 年（2024 年）繁殖シーズンに生まれた幼鳥の養育を 4 月頃まで継続した場合は繁殖しない可能性があるため、監視カメラ等を活用しつつ、繁殖・生息状況の確認を行う方針。幼鳥が地区を離れる時期に留意して調査を行う方針について了解を得た。
- 餌動物に関し、確認した一般鳥類等の種類だけでなく、個体数もできるだけ記録したほうがよいとの意見をいただいた。
- その他猛禽類に関して、オオタカは平成 28 年（2016 年）より確認できおらず、近年ハチクマは、飛翔個体が確認はされているものの調査地区での繁殖の可能性が低いと考えられる。サシバは、ダム関連工事から離れた箇所でも継続して繁殖するつがいが確認されている。
これらのことより、令和 8 年シーズン以降は豊川水系ダム事業事後調査（の一環として実施をしていく方針について了解を得た。

6. 令和 7 年（2025 年）繁殖シーズンの工事に対する環境保全措置等計画（案）

- クマタカ A ペアは、直近の営巣木から 500m 内にて実施する 1 箇所の工事において、騒音等の影響が限定的なため個別の環境保全措置を当初予定せず、モニタリング調査（定点観察）によりクマタカの忌避・警戒行動の有無を確認する計画とすること。調査を進めていく中で、コアエリア内で実施予定の工事に対し、当初は監視調査のみを行っていき、営巣地の特定や、工事計画の変更などが確認され次第、工

事個別措置の検討の必要性をその都度確認し、該当あれば速やかに検討を行うことについて了解を得た。

- クマタカ B ペアは既知営巣地から 500m 内にて実施する 1 箇所の工事において、騒音等の影響が限定的なため個別の環境保全措置を当初予定せず、モニタリング調査（定点観察）によりクマタカの忌避・警戒行動の有無を確認する計画とすること。調査を進めていく中で、コアエリア内で実施予定の工事に対し、当初は監視調査のみを行っていき、営巣地の特定や、工事計画の変更などが確認され次第、工事個別措置の検討の必要性をその都度確認し、該当あれば速やかに検討を行うことについて了解を得た。

以 上